

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル(笑顔のまま)です。

Stay Smile

ステイ・スマイル

Stay Smile 農業の未来へ向かって～新たな力～

町新規就農支援事業

◆相馬信行さん(立沢)

はじめまして。新規就農3年目・新田地区にて菊栽培をしております、相馬信行と申します。日頃よりとても温かいご支援をいただき感謝申し上げます。

出身は静岡県三島市。大学卒業後12年間サラリーマン生活を送っていましたが、「成功も失敗もすべて自分自身で責任が持てる仕事がしたい」という思いから退職し、農業を志しました。原村の八ヶ岳中央農業実践大学校（1年）、立沢地区的農家さんに弟子入り（1年）を経て、2013年5月より独立経営を開始しました。雪害によるハウス倒壊などあったものの、初年度・2年目とも黒字を出すことができました。その品質を全国的に認知されている富士見町の菊栽培は、確実に産業となりえる、と確信しています。

富士見町での生活も数年が経ち、この地域の美しさ・豊かさ・温かさを深く実感しています。1ターンで飛び込んだ私を温かく迎えてくれたこの地を盛り上げたい。私だけの利益を少しくらい削ってでも地域全体として盛り上がったほうが絶対に幸せに近づける。昨冬には県の認定資格「農業士」を取得し、今季は地域の方2名に働いていただいております。私ができる地域貢献はすべてしていきたいと考えております。今後とも末永くのご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。



Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ 富士見町読書活動推進委員会 事務局 ☎62-7930

富士見町子ども読書活動推進計画(第2次)

【保育園の活動】

- *毎日の読み聞かせ
- *自由にのんびり楽しめる絵本コーナー
- *家庭への絵本の貸し出し

各園の活動はさまざまです。それぞれの園で子どもたちの育ちを願い、それぞれの発達段階に応じた豊かな楽しい読書体験を積み重ねられるような環境づくりをしています。

～今回は「富士見保育園」の活動のご紹介をします～

富士見保育園では、毎朝絵本の読み聞かせをしています。年齢や季節・行事などを考えて、保育士が絵本を選んで読んでいます。子どもたちは絵本が大好き。とても集中して見てています。保護者の方による読み聞かせも行っています。朝子どもの登園の時間に合わせてやっていただきます。自分のお母さんが来てくれた時には「お母さんどんな本を読んでくれるのかな?」と子どももウキウキ・ワクワク。今年も何人かのお母さんが読み聞かせをしてくださいましたが、子どもたちも楽しみにしていますので、多くの方にやっていただきたいと思っています。また、保育園の絵本コーナーでは子どもたちが絵本を手に取ってみたくなるように、その季節の絵本にポップをつけて紹介しています。



▲保護者による読み聞かせ

富士見保育園は図書館が近いということもあり、年長児が図書館に絵本を借りに行きます。その時には図書館の職員の方に読み聞かせもしていただいています。そして、あれこれ絵本を見て自分の好きな絵本を1冊ずつ借りてきます。保育園で見たり、家に借りて行ったりしてみんなで図書館の絵本を楽しんでいます。



▲図書館で絵本を借りている様子

絵本は言葉を学び、感性を磨き、表現力を豊かにし、「聞いて理解して考える」という力をつけるために必要なものです。お家の方と一緒にたくさん絵本に出会ってほしいと思います。

※次回は西山保育園の読書活動について紹介します。

昭和33年の井戸尻遺跡の発掘をきっかけに、富士見町域ではいくつかの遺跡が発掘されました。そこにかかわった人々を振り返りながら紹介します。

そり 曾利遺跡②(昭和35・36年)

昭和35・36年の曾利遺跡の発掘がもたらした成果は、大きなものでした。とりわけ35年に5号住居址から出土したコッペパンのような形の炭化食品は、「縄文のパン」ではないか、縄文時代の農耕を立証する手掛かりになるのではないか、と、藤森栄一さんは考えます。この重要資料を何とか形に—武藤雄六さんがバラバラの炭のかけらを根気よく丁寧につなぎ合わせ、2年の歳月をかけてようやく2個の大きな塊にすると、藤森さんは勇躍、日本考古学協会での研究発表にのぞみました。結果は満足のいくものではなかったようですが、以後、井戸尻の周辺は縄文時代の農耕を立証する研究の舞台になります。



▲長野県考古学会第1回大会の朝の信濃境駅前



▲曾利遺跡にて 右端が藤森栄一さん
(昭和36年4月6日)

参考：「考古学とともに」(講談社) 1970 藤森栄一
「井戸尻保存会の記録」 2008 井戸尻遺跡保存会

写真は武藤盈氏の撮影

原体験を大事にしたい

毎年夏休みに入つてすぐの7月終わりに、子どもたちの自然体験プログラム「あそびばWe!夏の会」を開催しています。今年は7月30日に行い登山と川遊びを楽しみました。保護者の参加もありました。

登山は、半日で登頂下山ができる標高1600メートルの低山ですが、登山道はなかなかの斜度で、登頂したときの達成感は低山とは思えないくらいです。川は山女魚が泳ぐ美しい川で、沢登りも楽しめます。

参加した子どもは、幼児から中学生までで年齢や学年も様々です。We!の楽しみ方もそれぞれで、お山のてっぺんに堂々たる絵画を残す低学年女子、山歩きの時間を使って、大人には話せないあれやこれやをおしゃべりする中学生女子、大きいお兄ちゃんたちに追いつきたくて一生懸命付いて登る幼稚園児、川ではただひたすら魚を追いかけ、獲ったぞ～!!と満面の笑みを投げてくる高学年男子、などなど。それぞれが、今の時代普段の生活ではなかなかできない体験をしました。そんな子どもたちを少し離れたポジションで見守るお母さんたち、必要な時だけそばにいて声をかけたり、一緒に遊んだりと、自然の中では大人もおおらかに過ごすことができます。

あそびばWe!は子どもたちの原体験の場として、内容を少しずつ変えながらも10年以上続けています。

初期の頃から参加している子は前述の中学生。彼女たちの中には、We!での体験が原体験として蓄えられていることを願っています。そして小学生や園児にとっても、学年を超えた繋がりを紡ぎながら、自然の中で少しハーフ

ドな原体験を重ねることが、この先大きくなっていく過程で起こるであろう様々なことを乗り越えるときの原動力になるでしょう。

